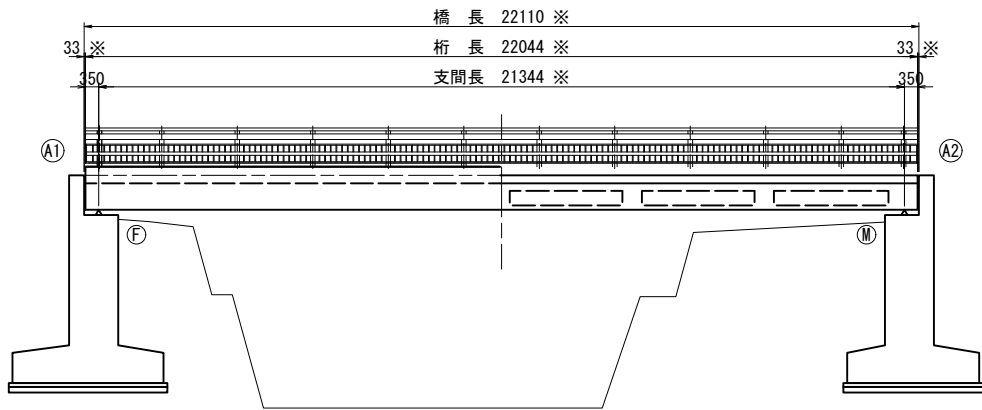
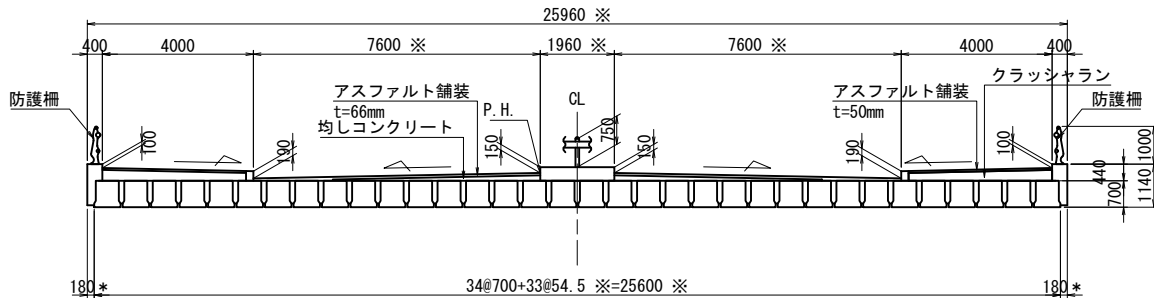


新竹原橋 橋梁一般図

側面図 S=1:100

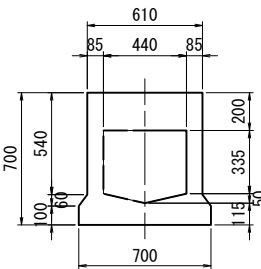


断面図 S=1:100



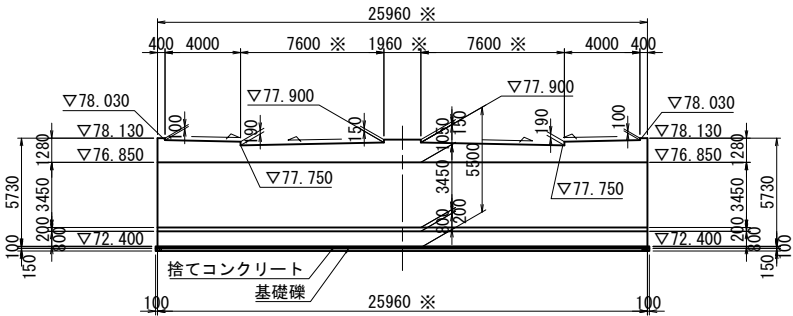
主桁断面図 S=1:20

支点部 中央部

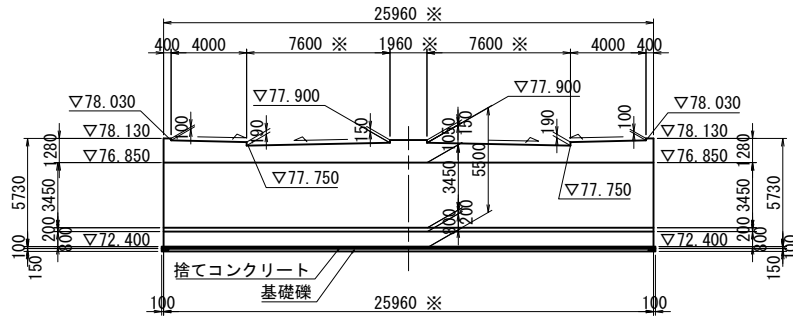


下部工正面図 S=1:200

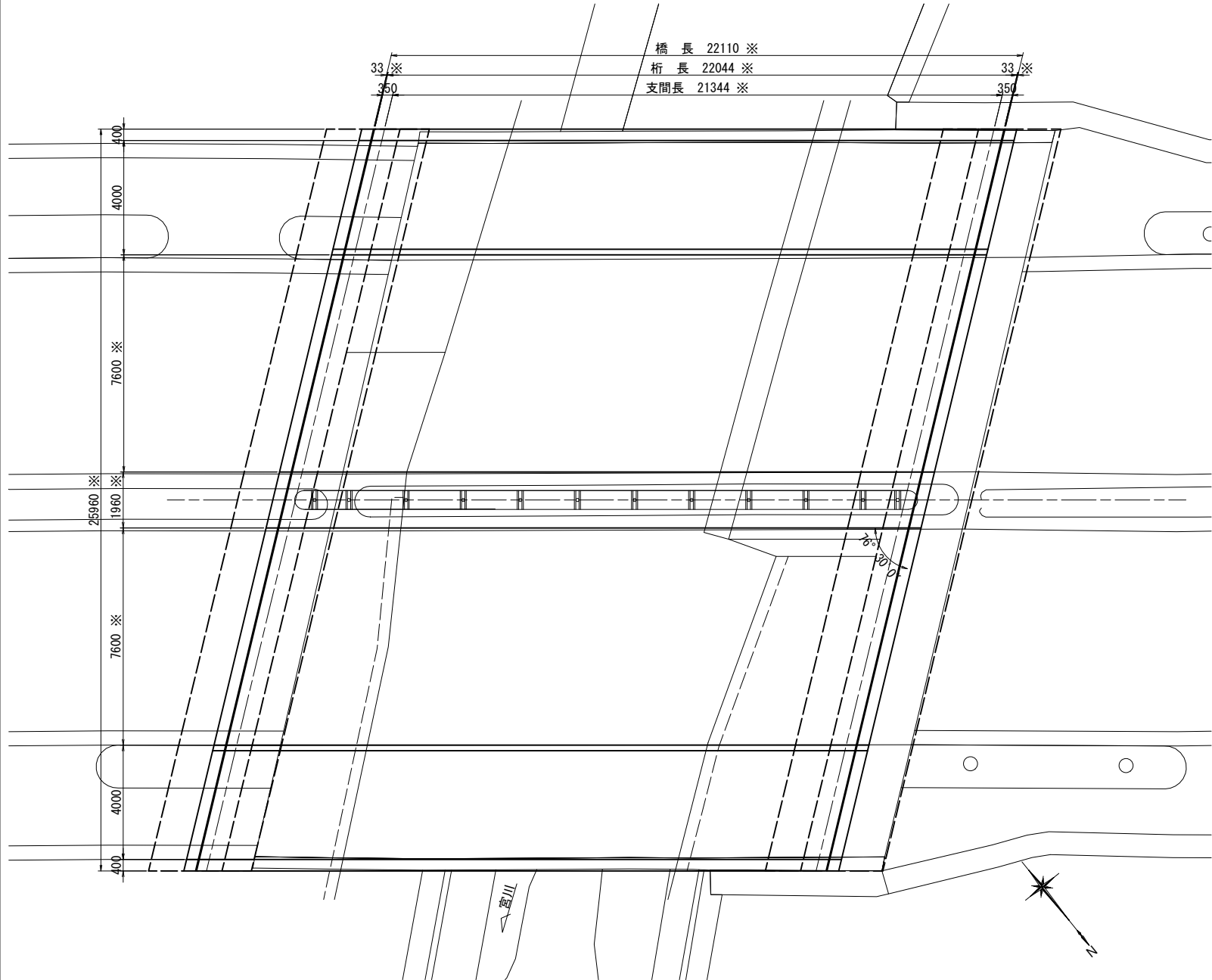
A1橋台



A2橋台



平面図 S=1:100



設計条件

橋 格		1等橋	
橋 長		22.110 m ※	
桁 長		22.044 m ※	
支 間 長		21.344 m ※	
全 幅 員		25.960 m ※	
幅員構成	車道	2 @ 7.600 m ※	
	歩道	2 @ 4.000 m	
斜	角	左 76° 30' 00"	
活 荷 重	TL-20		
雪 荷 重	0.100 t/m2		
設計水平震度			
0.18			
形 式		プレテンション方式単純中空床版橋	
上部構造	材料強度	コンクリート	主桁 σck=600kg/cm2 床組 σck=240kg/cm2
		PC鋼材	主桁 1T12.4 σpu=175kg/mm2 σpy=150kg/mm2
	床版 1T21.8 σpu=185kg/mm2 σpy=160kg/mm2		
	鉄 筋	SD30 σsa=1400kg/cm2 (床版), 1800kg/cm2	
下部構造	形式	逆T式鉄筋コンクリート橋台	
	基 礎	直接基礎	
	コンクリート	σck=210kg/cm2	
	鉄 筋	SD30 σsa=1800kg/cm2 (一般), 1600kg/cm2 (土水中)	
	許容支持力	Qa=40t/m2 (常時), 60t/m2 (地震時)	

注) 1. 本図は、河川法第24・26条許可申請書(昭和62年9月17日)添付図(以下、添付図)を基に復元したものである。
2. ※を付した寸法値は本業務現地調査結果により更新した寸法である。
3. 図面中の標高は添付図の数字を転載したものであり、現況を反映したものではない。
4. 平面図の橋梁部以外(地形・河川等)は道路台帳附図を使用した。ただし、橋梁区間の護岸のみ本業務現地調査の計測結果より図示している。

xt26: 5. 対称橋梁の桁端部はA1橋台のみ直接確認でき、A2橋台側は直接目視不可能となっている。そのため、遊間量は、起終点同等としてA1橋台側で計測した値とし、桁長は、橋面で計測した橋長から遊間量を差し引いて設定した。

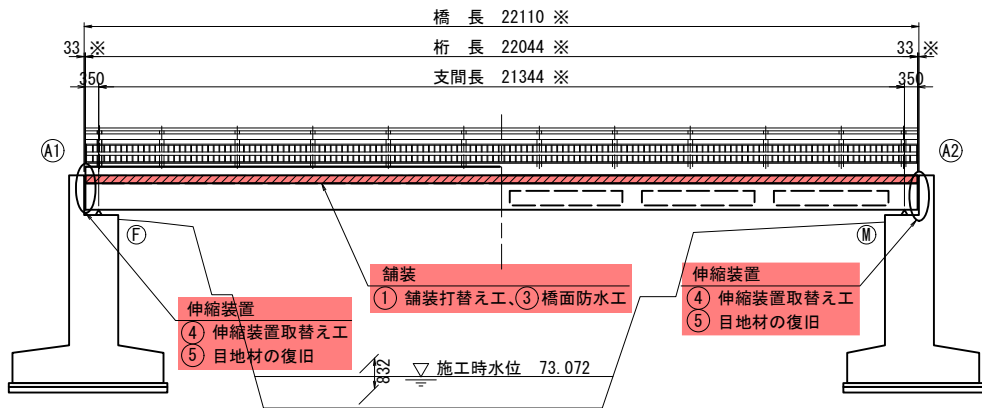
tz: 6. 地覆部下面の張出し長さ(断面図*付記の寸法)は、A1橋台付近の上流側で計測した結果である。下流側は直接計測できないが、添付図から上流側と同一寸法と想定されるので、下流側の寸法もA1橋台付近の上流側で計測した結果と同一寸法としている。

工事名	道路メンテナンス事業 新竹原橋補修設計業務委託		
図面名	新竹原橋 橋梁一般図		
作成年月日	令和 6 年 12 月 25 日		
縮尺	図 示	図面番号	2 / 7
会社名	大日本ダイヤコンサルタント株式会社		
事業者名	富士吉田市役所		

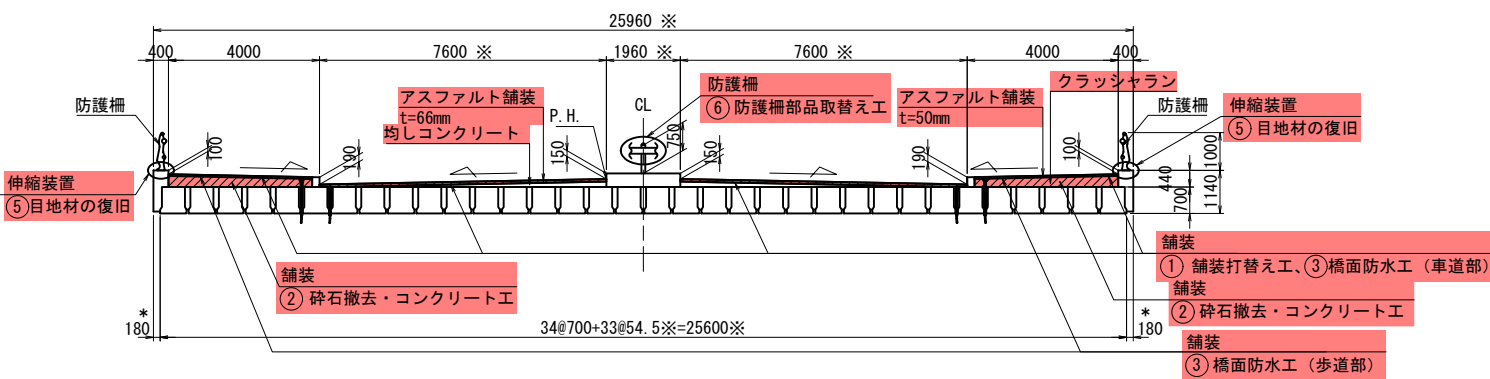
参考図

新竹原橋 補修一般図

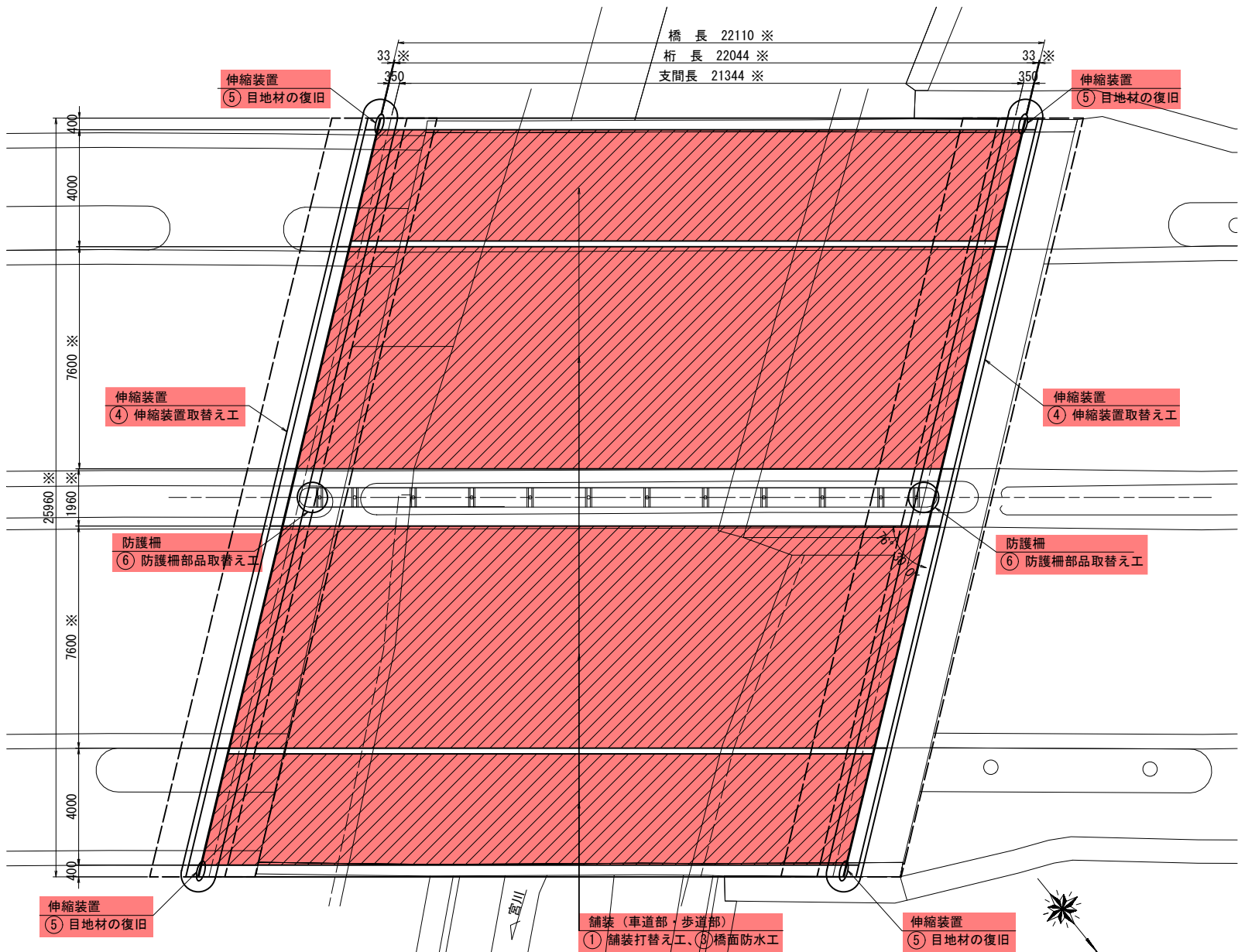
側面図 S=1:100



断面図 S=1:100



平面図 S=1:100



補修項目一覧表

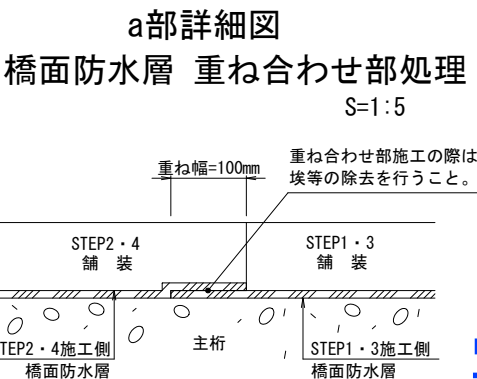
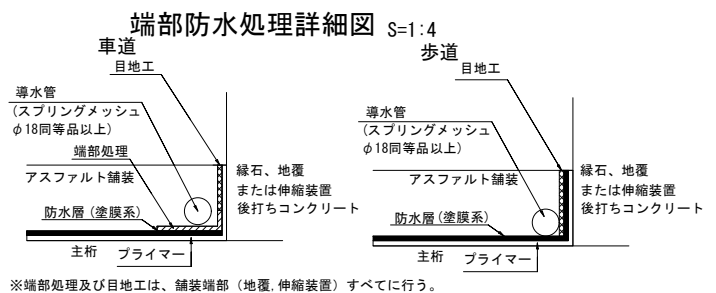
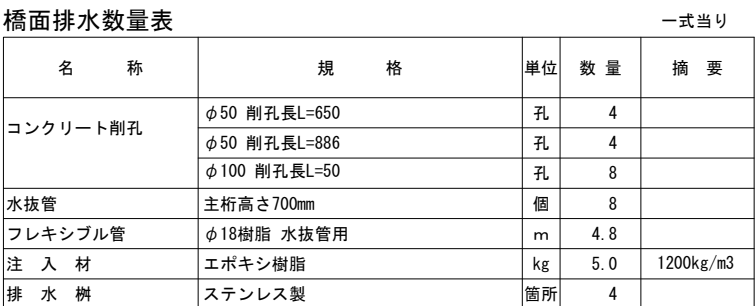
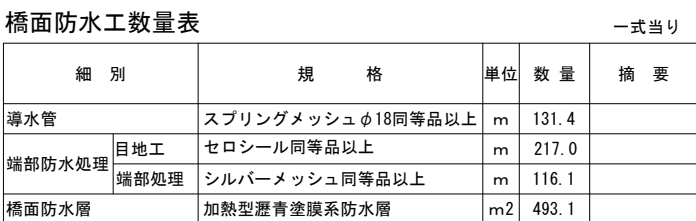
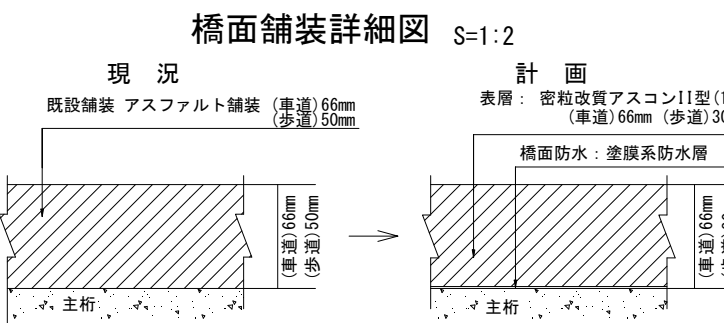
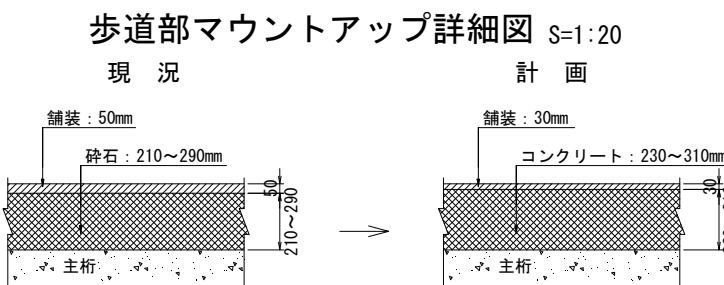
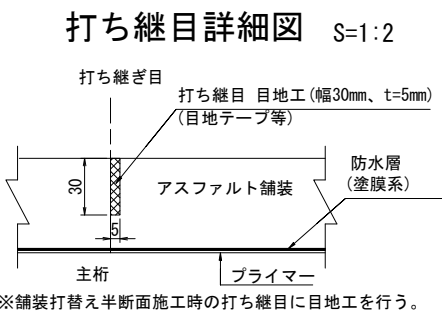
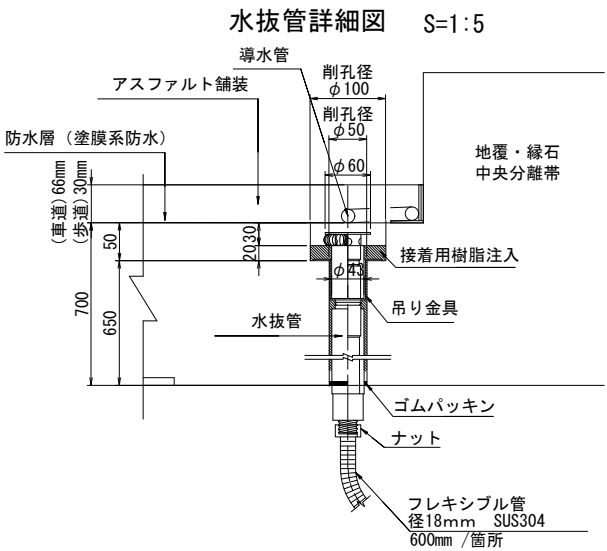
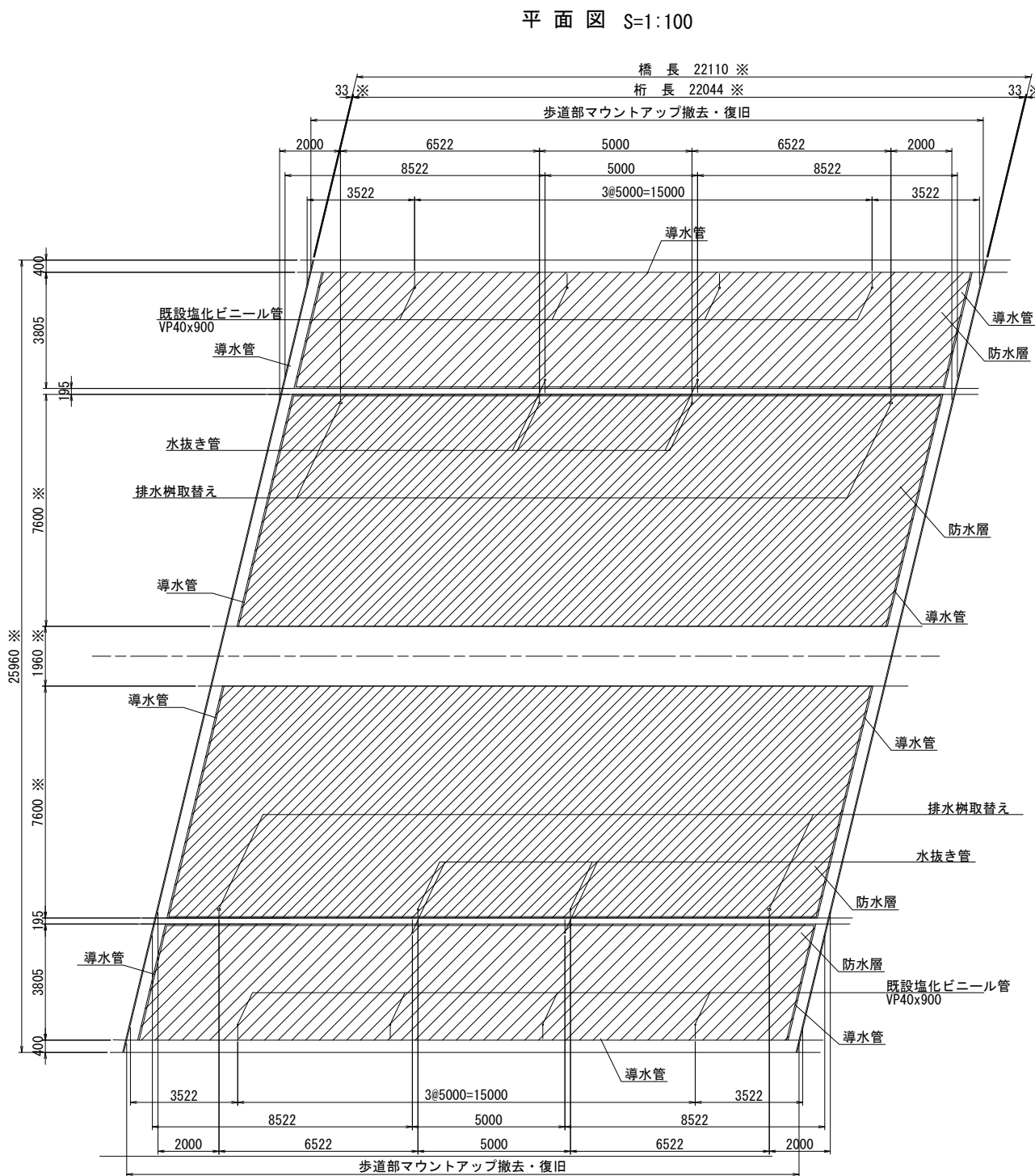
補修対象部材	損傷内容	番号	対策工
舗装	舗装のひびわれ 主桁下面の漏水・遊離石灰	①	舗装打替え工
		②	砕石撤去・コンクリート工
		③	橋面防水工
伸縮部	伸縮装置の止水機能低下 目地材の欠損	④	伸縮装置取替え工
		⑤	目地材の復旧
防護柵	防護柵の変形	⑥	防護柵部品取替え工

- 注）1. 本図は、河川法第24・26条許可申請書（昭和62年9月17日）添付図（以下、添付図）を基に復元したものである。
2. ※を付した寸法値は本業務現地調査結果により更新した寸法である。
3. 図面中の標高は添付図の数字を転載したものであり、現況を反映したものではない。
4. 平面図の橋梁部以外（地形・河川等）は道路台帳附図を使用した。ただし、橋梁区間の護岸のみ本業務現地調査の計測結果より図示している。
5. 対象橋梁の桁端部はA1橋台側のみ直接確認でき、A2橋台側は直接目視不可能となっている。そのため、遊間量は、起終点同等としてA1側で計測した値とし、桁長は、橋面で計測した橋長から遊間を差し引いて設定した。
6. 地覆部下面の張出し長さ（断面図*付記の寸法）は、A1橋台付近の上流側で計測した結果である。下流側は直接計測できないが、添付図から上流側と同一寸法と想定されるので、下流側の寸法もA1橋台付近の上流側で計測した結果と同一寸法としている。

実施

工事名	道路メンテナンス事業 新竹原橋補修設計業務委託		
図面名	新竹原橋 補修一般図		
作成年月日	令和 6 年 12 月 25 日		
縮尺	図 示	図面番号	3 / 7
会社名	大日本ダイヤコンサルタント株式会社		
事業者名	富士吉田市役所		

新竹原橋 舗装打替え工・橋面防水工詳細図(その1)



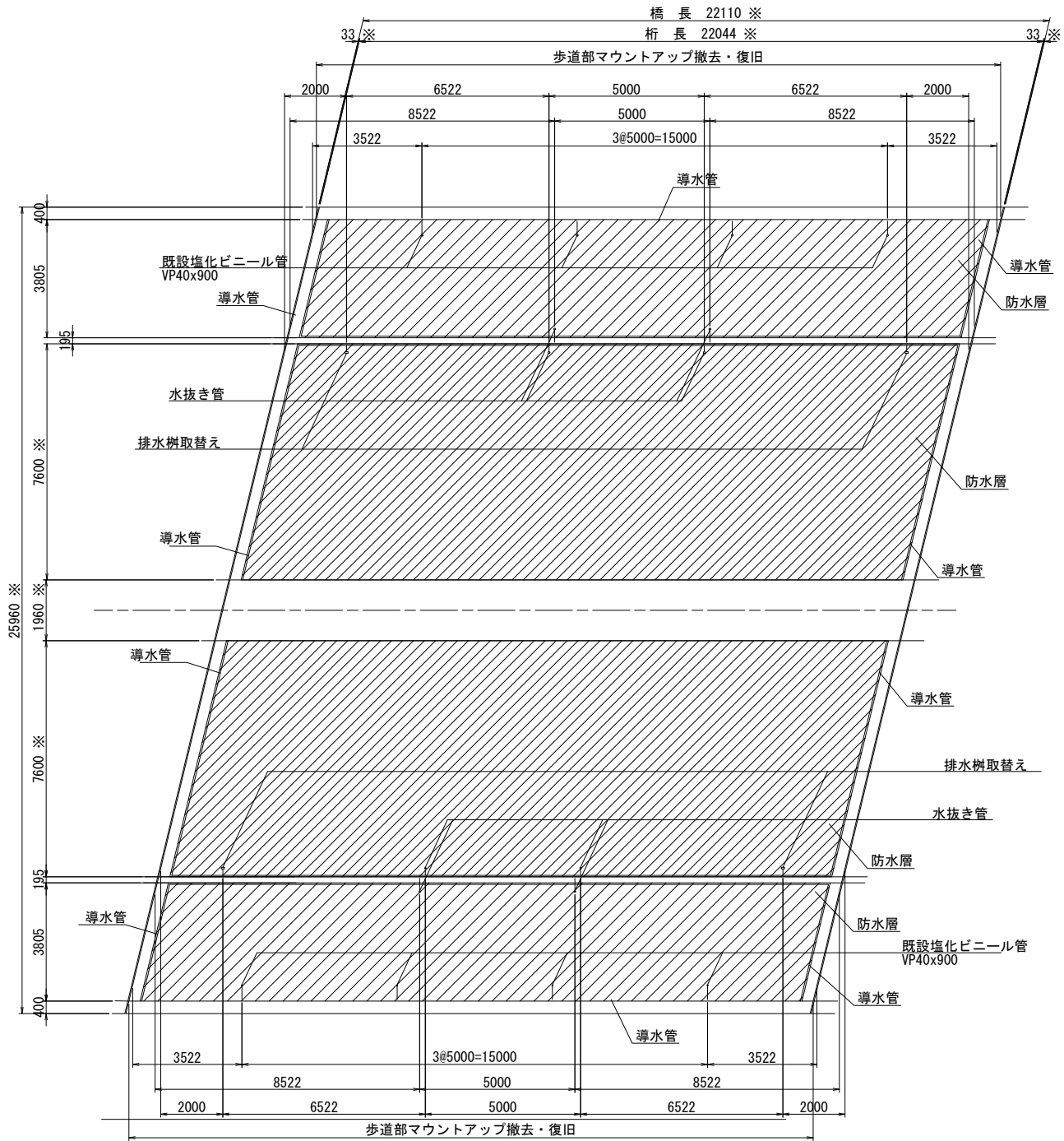
实施

工事名	道路メンテナンス事業 新竹原橋補修設計業務委託		
図面名	新竹原橋 舗装打替工・ 橋面防水工詳細図(その1)		
作成年月日	令和 6 年 12 月 25 日		
縮尺	図 示	図面番号	4 / 7
会社名	大日本ダイヤコンサルタント株式会社		
事業者名	富士吉田市役所		

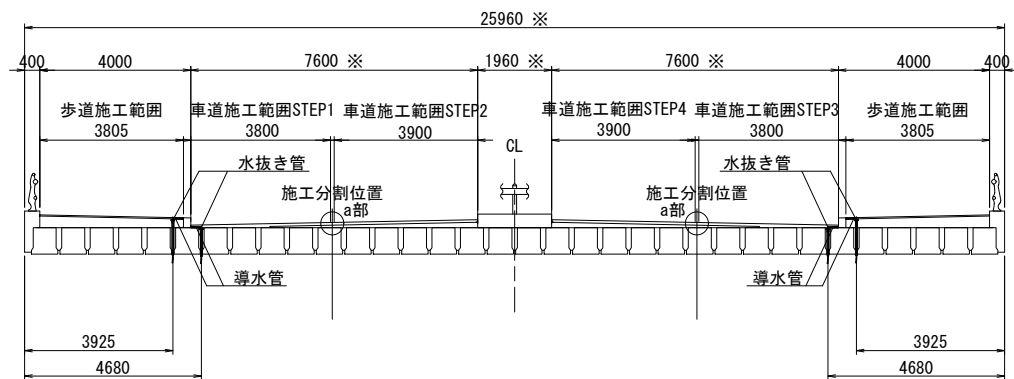
- 注) 1. 本図における橋梁本体寸法は、河川法第24・26条許可申請書(昭和62年9月17日)添付図(以下、添付図)を基に復元したものである。
2. ※を付した寸法値は本業務現地調査結果により更新した寸法である。
3. 車道部の舗装厚は、代表箇所1箇所での舗装はつり調査により確認した現況の舗装厚として設定している。舗装打替え・橋面防水工の実施にあたっては、現地確認を行い施工時点での現地状況と本設計成果の整合を確認すること。
4. 舗装の切削後、主桁上面または調整コンクリートに別途損傷が見受けられる場合は、道路管理者と協議の上、断面修復等の処置を適宜実施すること。
5. 水抜ききを削孔する際は主桁の鉄筋やPCケーブルに傷つけないよう留意すること。
6. 上流側の歩道に配水管が埋設されているため、歩道部のマウントアップ部を撤去・設置する際は留意すること。
7. 車道部の舗装打替え工・橋面防水工は車線規制下の施工を計画しており、規制切り替え毎の施工範囲を断面図に示している。
8. 橋面防水層及び端部処理、目地材は伸縮装置後打ちコンクリートに立ち上げるため、橋面防水工は伸縮装置設置前に実施すること。
9. 歩道部のマウントアップ撤去工(砕石撤去工)砕石撤去は歩道部の既設伸縮装置撤去前に実施し、マウントアップ設置工(コンクリート工)は歩道部の伸縮装置設置前に実施すること。

新竹原橋 舗装打替え工・橋面防水工詳細図(その1)

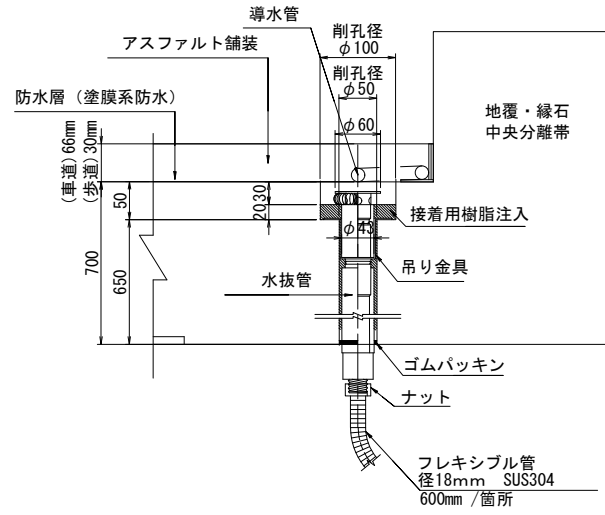
平面图 S=1:10



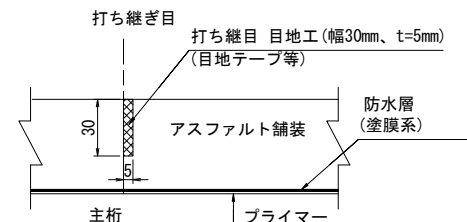
断面图 S=1:10



水抜管詳細図 S=1:

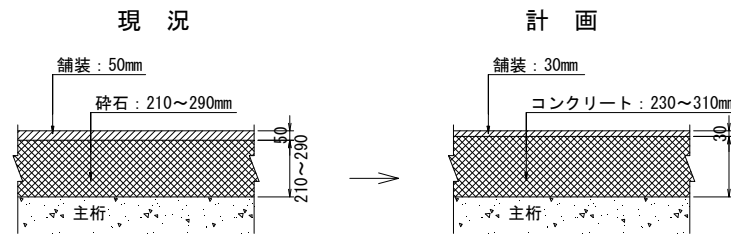


打ち継目詳細図 S=1:

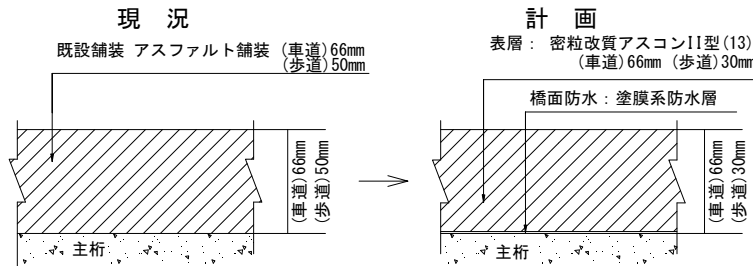


※舗装打替え半断面施工時の打ち継目に目地工を行う。

歩道部マウントアップ詳細図 S=1:20



橋面舗装詳細図 S=1:



鋪装工数量表

細 別	規 格	単位	数 量	摘 要
路面切削工	アスファルト舗装 t=66mm	m2	325.7	
舗装版破砕工	アスファルト舗装 t=50mm	m2	163.1	
舗装撤去体積	アスファルト舗装 t=66mm	m3	29.7	
掘削工		m3	40.8	
型枠工		m2	0.34	
コンクリート工		m3	44.1	
下地処理	下地清掃	m2	488.8	
舗装工面積	アスファルト舗装 t=66mm	m2	325.7	
	アスファルト舗装 t=30mm	m2	163.1	
区画線工	実線白色 15cm幅	m2	88.2	

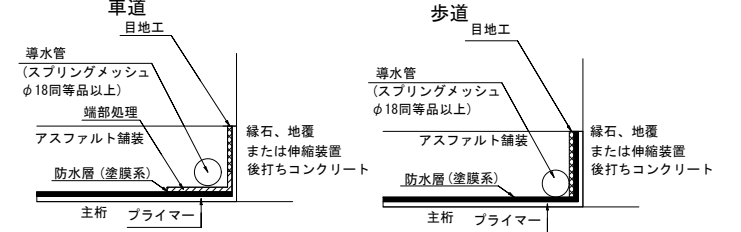
橋面防水工数量表

細 別		規 格	単位	数 量	摘 要
導水管		スプリングメッシュφ18同等品以上	m	131.4	
端部防水処理	目地工	セロシール同等品以上	m	217.0	
	端部処理	シルバーメッシュ同等品以上	m	217.0	
橋面防水層		加熱型瀝青塗膜系防水層	m2	497.4	

橋面排水数量表

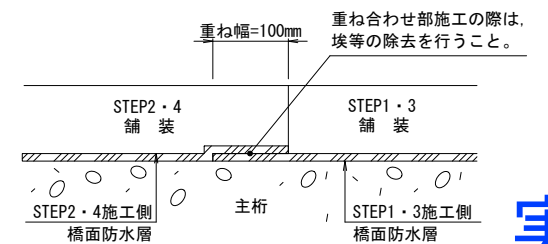
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
コンクリート削孔	φ50 削孔長L=650	孔	4	
	φ50 削孔長L=870	孔	4	
	φ100 削孔長L=50	孔	8	
水抜管	主柵高さ700mm	個	8	
フレキシブル管	φ18樹根 水抜管用	m	4.8	
注 入 材	エポキシ樹脂	kg	6.9	1200kg/m3
排 水 柵	ステンレス製	箇所	4	

端部防水処理詳細図 S=1:4



※端部処理及び目地工は、端部（地覆、伸縮装置）すべてに行う。

a部詳細図
橋面防水層 重ね合わせ部処理
S=1:5



实施

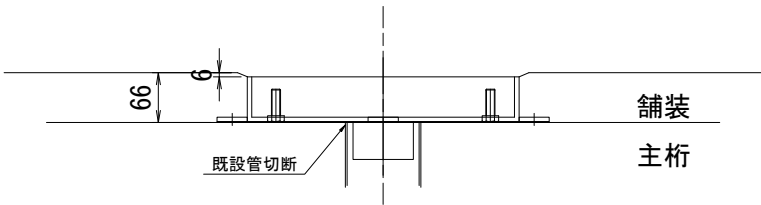
- 注) 1. 本図における橋梁本体寸法は、河川法第24・26条許可申請書(昭和62年9月17日)添付図(以下、添付図)を基に復元したものである。
2. ※を付した寸法値は本業務現地調査結果により更新した寸法である。
3. 車道部の舗装厚は、代表箇所1箇所の舗装はつり調査により確認した現況の舗装厚として設定している。舗装打替え・橋面防水工の実施にあたっては、現地確認を行い、施工時点での現地状況と本設計成果の整合を確認すること。
4. 舗装の切削後、主桁上面または調整コンクリートに別途損傷が見受けられる場合は、道路管理者と協議の上、断面修復等の処置を適宜実施すること。
5. 水抜き孔を削孔する際は主桁の鉄筋やPCケーブルに傷つけないよう留意すること。
6. 上流側の歩道に配水管が埋設されているため、歩道部のマウントアップ部を撤去・設置する際は留意すること。
7. 車道部の舗装打替え工・橋面防水工は車線規制出の施工を計画しており、規制切り替え毎の施工範囲を断面図に示している。
8. 橋面防水層及び端部処理、目地材は伸縮装置後打ちコンクリートに立ち上げるため、橋面防水工は伸縮装置設置前に実施すること。
9. 歩道部のマウントアップ撤去工(砕石撤去工) 砕石撤去は歩道部の既設伸縮装置撤去前に実施し、マウントアップ設置工(コンクリート工)は歩道部の伸縮装置設置前に実施すること。

工事名	道路メンテナンス事業 新竹原橋補修設計監業務委託		
図面名	新竹原橋 舗装打替え工・ 橋面防水工詳細図(その1)		
作成年月日	令和 6 年 12 月 25 日		
縮尺	図 示	図面番号	4 / 7
会社名	大日本ダイヤコンサルタント株式会社		
事業者名	富士吉田市役所		

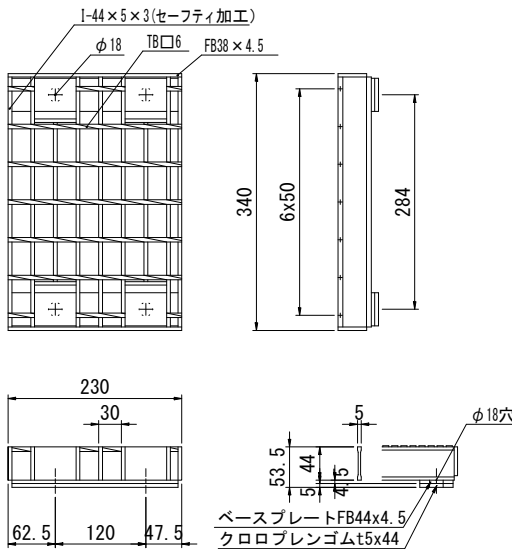
新竹原橋 舗装打替え工・橋面防水工詳細図（その2）

S=1:5

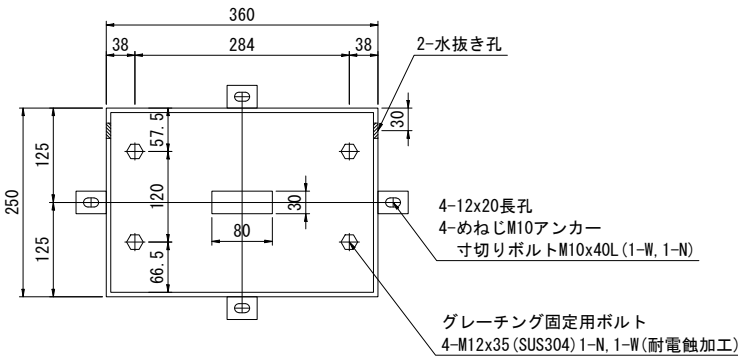
排水柵設置断面図



グレーチング詳細図
SS400 溶融亜鉛メッキ
(JIS H8641 HDZT63)

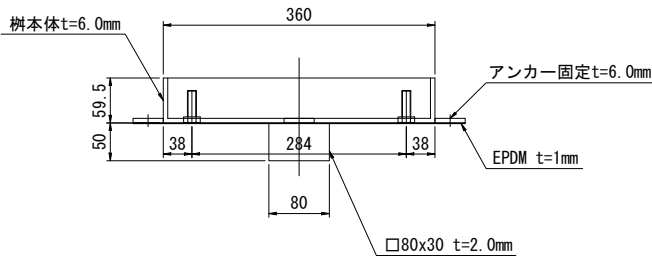
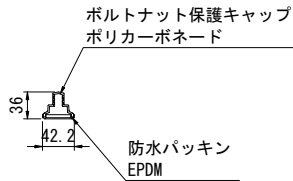
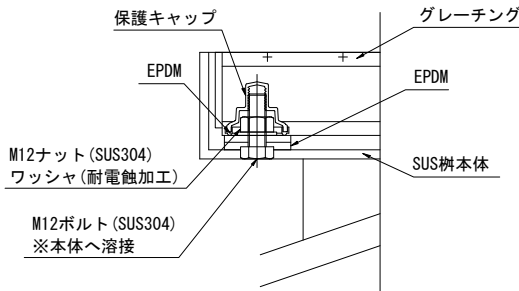


ステンレス排水柵詳細図
製作数=4



グレーチング、保護キャップ取付詳細図

保護キャップ詳細図



注) 1. 排水柵詳細図における特記なき材質はすべてSUS304とする。
2. 現地調査にて既存排水管や舗装との取り合い等の寸法計測を行った上で、製作・施工を行う。

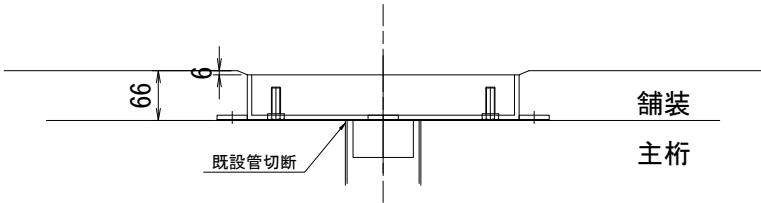
実施

工事名	道路メンテナンス事業 新竹原橋補修設計業務委託		
図面名	新竹原橋 舗装打替え工・ 橋面防水工詳細図(その2)		
作成年月日	令和 6 年 12 月 25 日		
縮尺	図 示	図面番号	5 / 7
会社名	大日本ダイヤコンサルタント株式会社		
事業者名	富士吉田市役所		

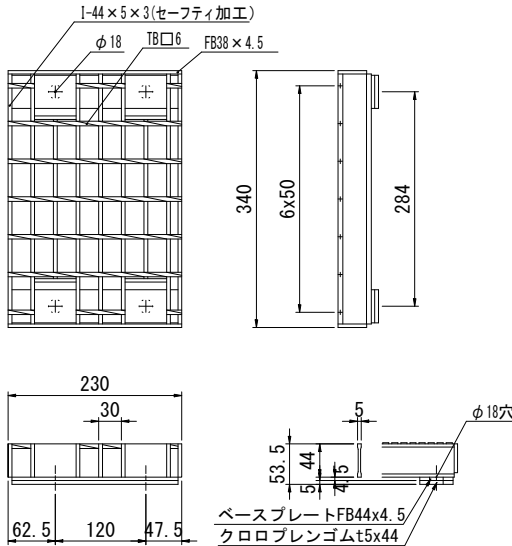
新竹原橋 舗装打替え工・橋面防水工詳細図（その2）

S=1:5

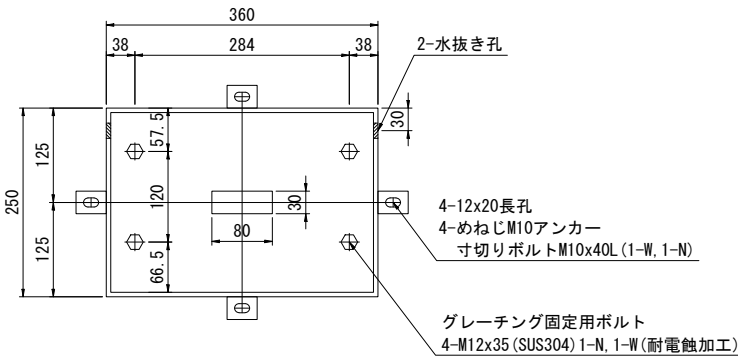
排水柵設置断面図



グレーチング詳細図
SS400 溶融亜鉛メッキ
(JIS H8641 HDZT63)

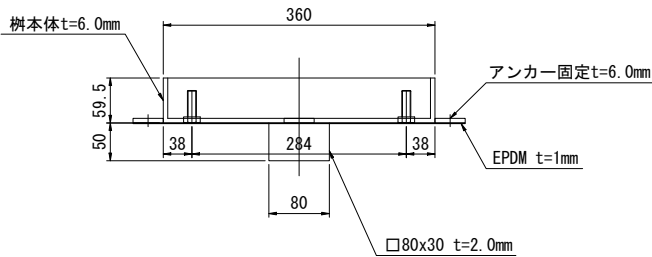
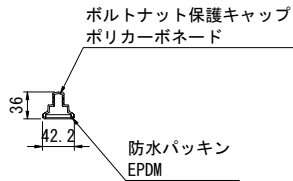
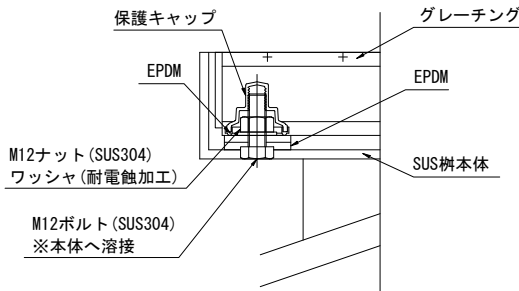


ステンレス排水柵詳細図
製作数=4



グレーチング、保護キャップ取付詳細図

保護キャップ詳細図



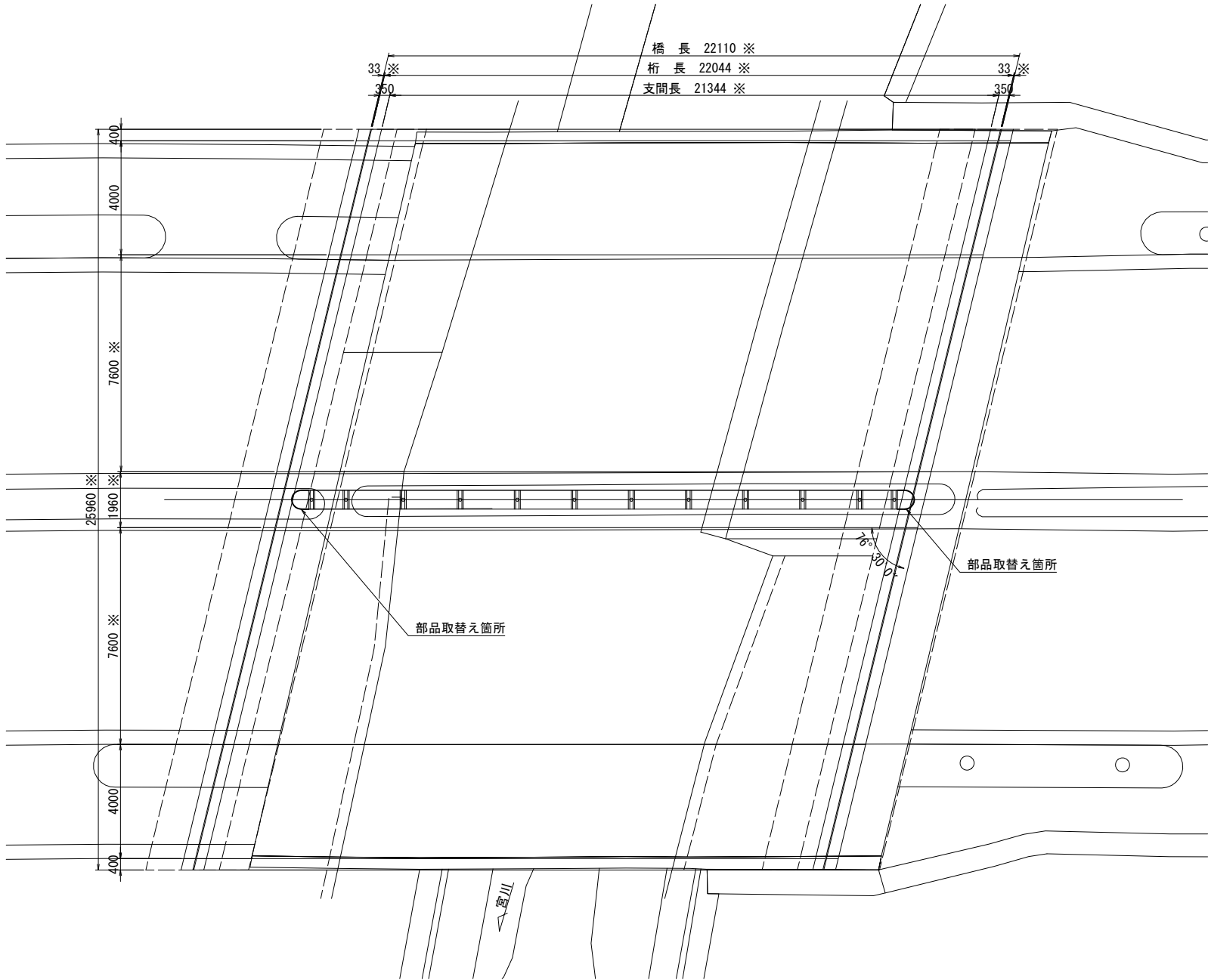
注) 1. 排水柵詳細図における特記なき材質はすべてSUS304とする。
2. 現地調査にて既存排水管や舗装との取り合い等の寸法計測を行った上で、製作・施工を行う。

実施

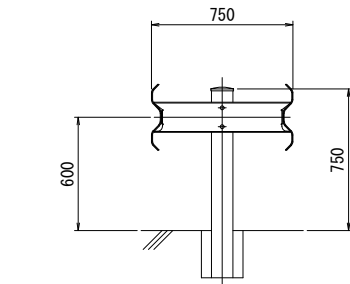
工事名	道路メンテナンス事業 新竹原橋補修設計業務委託		
図面名	新竹原橋 舗装打替え工・ 橋面防水工詳細図(その2)		
作成年月日	令和 6 年 12 月 25 日		
縮尺	図 示	図面番号	5 / 7
会社名	大日本ダイヤコンサルタント株式会社		
事業者名	富士吉田市役所		

新竹原橋 防護柵部品取替え工詳細図

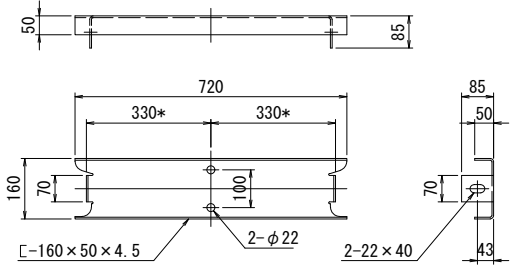
平面図 S=1:100



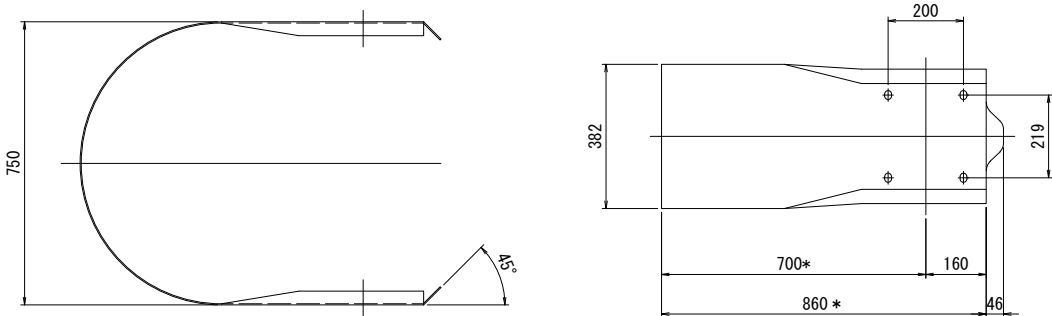
断面図 S=1:10



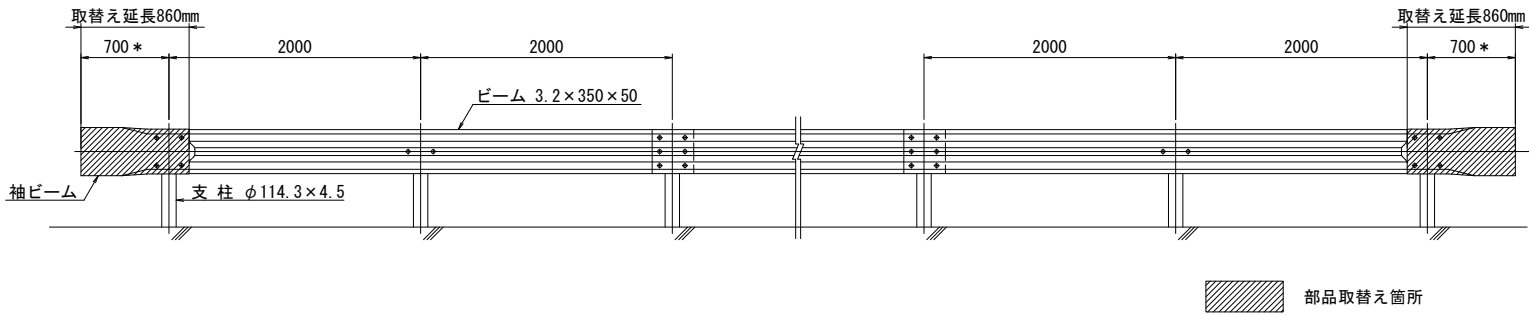
間隔材詳細図 S=1:10



袖ビーム詳細図 S=1:10



側面図 S=1:30



防護柵部品取替え工数量表

細別	規格	単位	数量	摘要
防護柵	Gr-Bm-2B (メッキ品) 両巻袖	箇所	2	

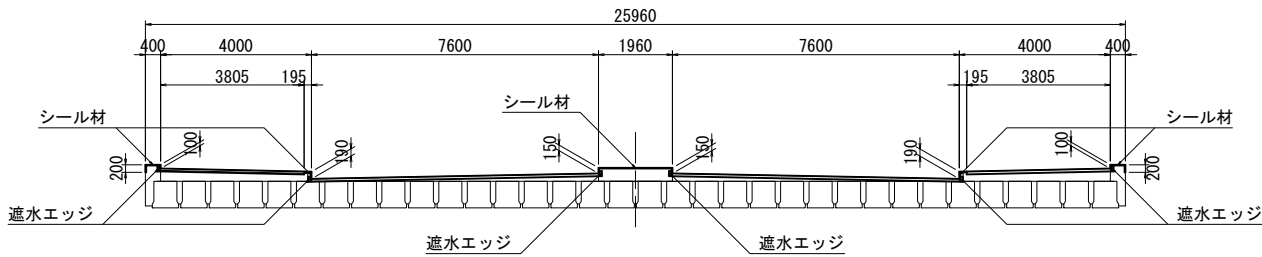
実施

- 注) 1. 本図における橋梁本体寸法は、河川法第24・26条許可申請書(昭和62年9月17日)添付図(以下、添付図)を基に復元したものである。
2. ※を付した寸法値は本業務現地調査結果により更新した寸法である。
3. 平面図の橋梁部以外(地形・河川等)は道路台帳附図を使用した。ただし、橋梁区間の護岸のみ本業務現地調査の計測結果より図示している。
4. 防護柵の規格は、防護柵の代表箇所の寸法計測結果よりGr-Bm-2Bと推測し、本図面の防護柵の寸法は標準図に基づいている。ただし、※を付した寸法はGr-Bm-2Bの標準図と現地計測結果に差異があり、現地計測結果による値としている。
5. 施工に先立ち、現地に於て既存防護柵の寸法を確認し、取替え部品の製作・施工を行うこと。

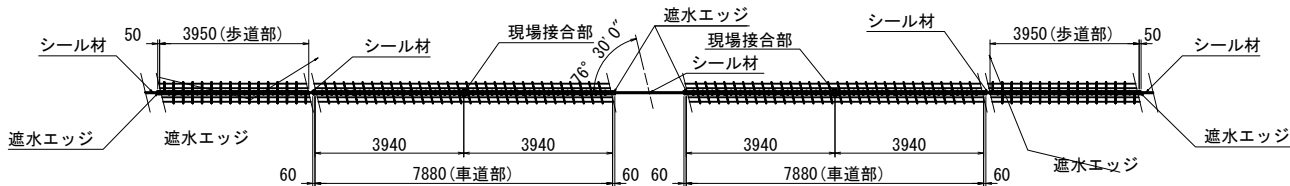
工事名	道路メンテナンス事業 新竹原橋補修設計業務委託		
図面名	新竹原橋 防護柵部品取替え工詳細図		
作成年月日	令和 6 年 12 月 25 日		
縮尺	図 示	図面番号	6 / 7
会社名	大日本ダイヤコンサルタント株式会社		
事業者名	富士吉田市役所		

新竹原橋 伸縮装置取替え工詳細図

断面図 S=1:100

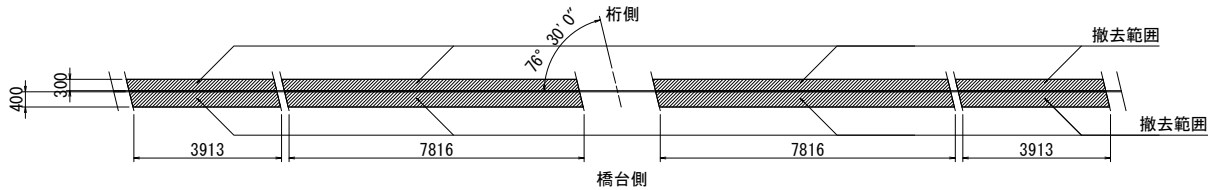


平面図 S=1:100

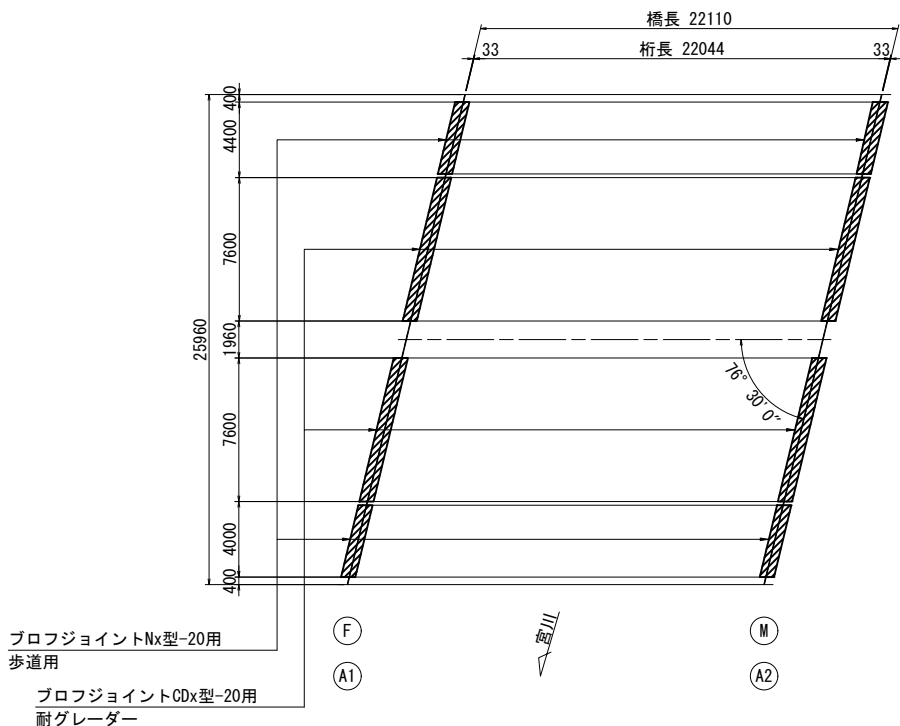


※現場接合部は、パッキンに接着剤を塗布し接合すること。また、指定範囲に溶接を施すこと。

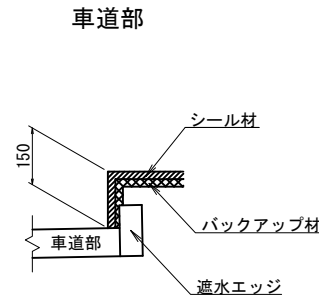
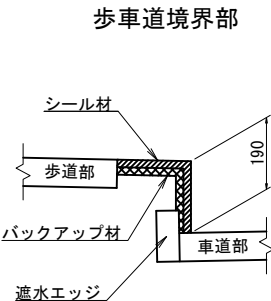
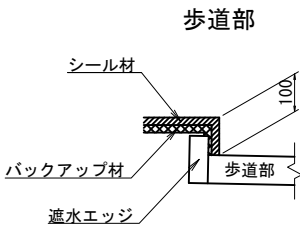
撤去平面図 S=1:100



配置図 S=1:200

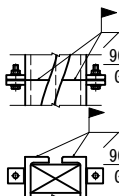


止水処理図 S=1:10



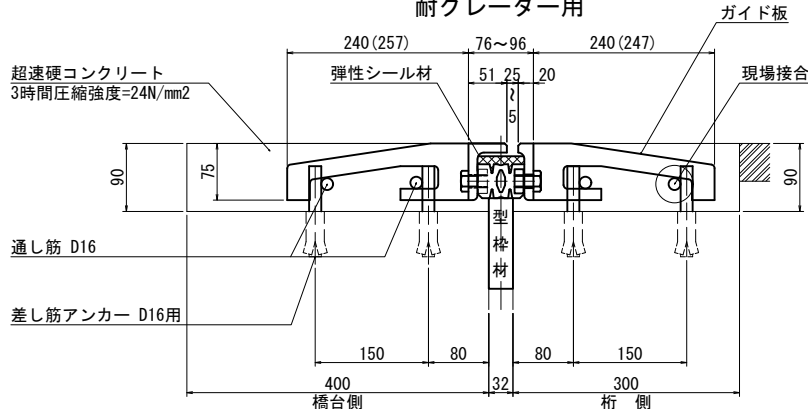
現場接合部詳細

プロフジョイントCD x 型



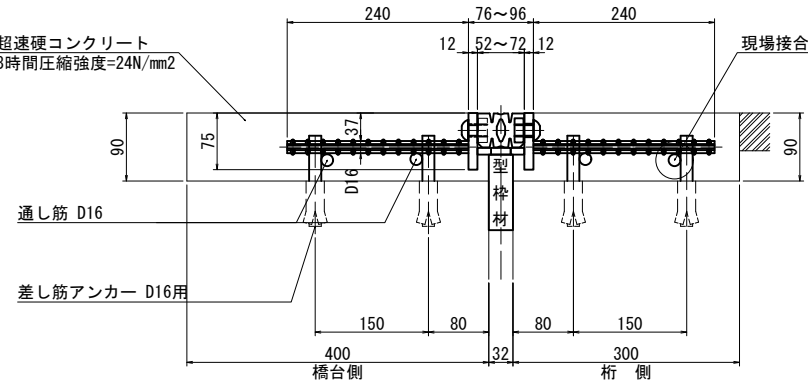
伸縮装置断面図 S= 1:5

プロフジョイントCDx型 (20用)
耐グレーダー用



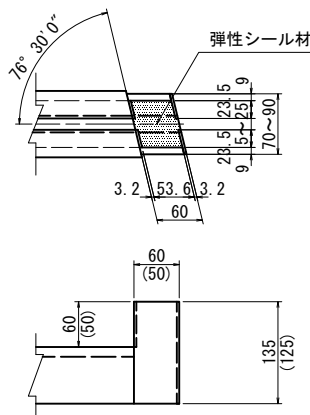
※() 内寸法は、車両進行方向を示す。

プロフジョイントNx型 (20用)
歩道用



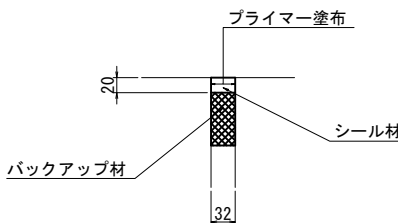
遮水エッジ S=1:5

プロフジョイント-20用



※() 内寸法は、歩道部を示す。

シール材充填図 S= 1:5



伸縮装置撤去工数量表

名 称	規 格	合計数量	備 考
舗装切断工		94.2 m	
伸縮装置撤去工	アスファルト舗装 車道 : t=66mm、歩道 : t=50mm	47.1 m	

伸縮装置設置工数量表

名 称	材 質	A1数量	A2数量	合計数量	備 考
プロフジョイントCDx型-20用	SS400 合成ゴム 弾性シール材	15.760 m	15.760 m	31.520 m	耐グレーダー用
プロフジョイントNx型-20用	SS400 合成ゴム SD345	7.900 m	7.900 m	15.800 m	歩道用
遮水エッジ	SS400 弾性シール材	6 個	6 個	12 個	
超速硬コンクリート		1.491 m3	1.491 m3	2.98 m3	3時間圧縮強度=24N/mm2
差し筋アンカー (D16用)	SD345	184 本	184 本	368 本	上部工側
差し筋アンカー (D16用)	SD345	184 本	184 本	368 本	下部工側
通 し 筋	SD345	4 本	4 本	8 本	D16x15760
通 し 筋	SD345	4 本	4 本	8 本	D16x7900
シール材	シリコン系	2.9リッター	2.9リッター	5.8リッター	
バックアップ材		4.520 m	4.520 m	9.040 m	
接合部接着剤	---	1 組	1 組	2 組	

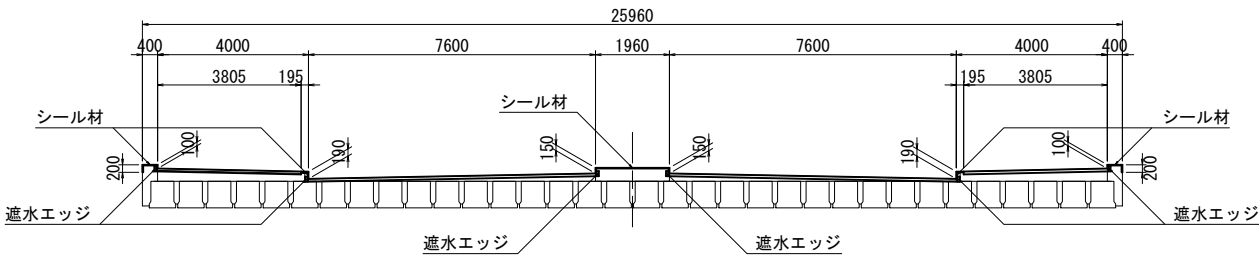
- 注) 1. 本図における橋梁本体寸法は、河川法第24・26条許可申請書 (昭和62年9月17日) 添付図 (以下、添付図) を基に復元したものである。
2. ※を付した寸法値は本業務現地調査結果により更新した寸法である。
3. 対象橋梁の桁端部はA1橋台側のみ直接確認でき、A2橋台側は直接目視不可能となっている。そのため、遊間量は、起終点同等としてA1橋台側で計測した値とし、桁長は、橋面で計測した橋長から遊間量を差し引いて設定した。
4. カッター幅及びはつり深さは、現地確認の上決定のこと。
5. あと施工アンカーを主桁に打込む際は、主桁の鉄筋やPCケーブルに留意すること。
5. 胸壁幅や伸縮装置設置長さ等は、施工前に現地に計測を行い、寸法を確認した上で、製作・施工すること。
6. シール材及びバックアップ材数量は、現地測量・現場協議のうえ決定する。
7. 歩道部において、伸縮装置撤去はマウントアップ部撤去工前に実施し、伸縮装置設置工はマウントアップ部設置工後かつ、橋面防水工前に実施すること。

実施

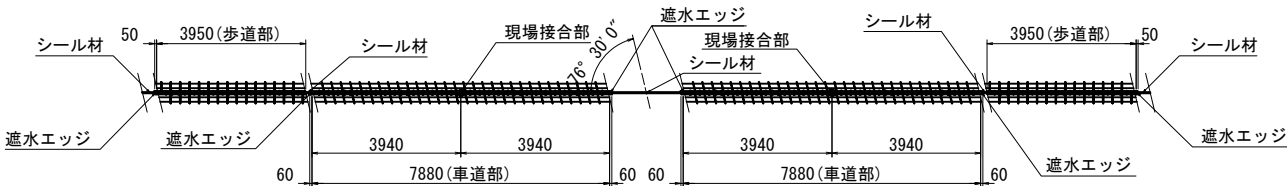
工事名	道路メンテナンス事業 新竹原橋 伸縮装置取替え工詳細図		
図面名	新竹原橋 伸縮装置取替え工詳細図		
作成年月日	令和 6 年 12 月 25 日		
縮尺	図 示	図面番号	7 / 7
会社名	大日本ダイヤコンサルタント株式会社		
事業者名	富士吉田市役所		

新竹原橋 伸縮装置取替え工詳細図

断面図 S=1:100

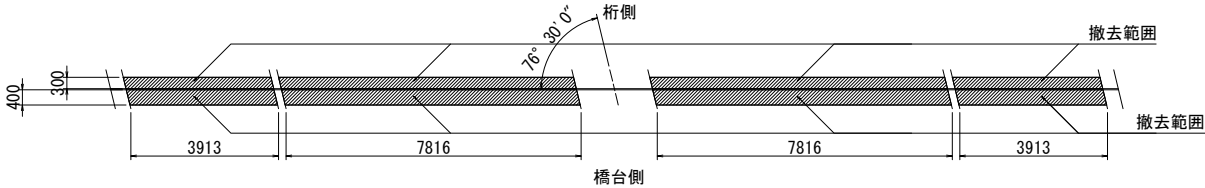


平面図 S=1:100

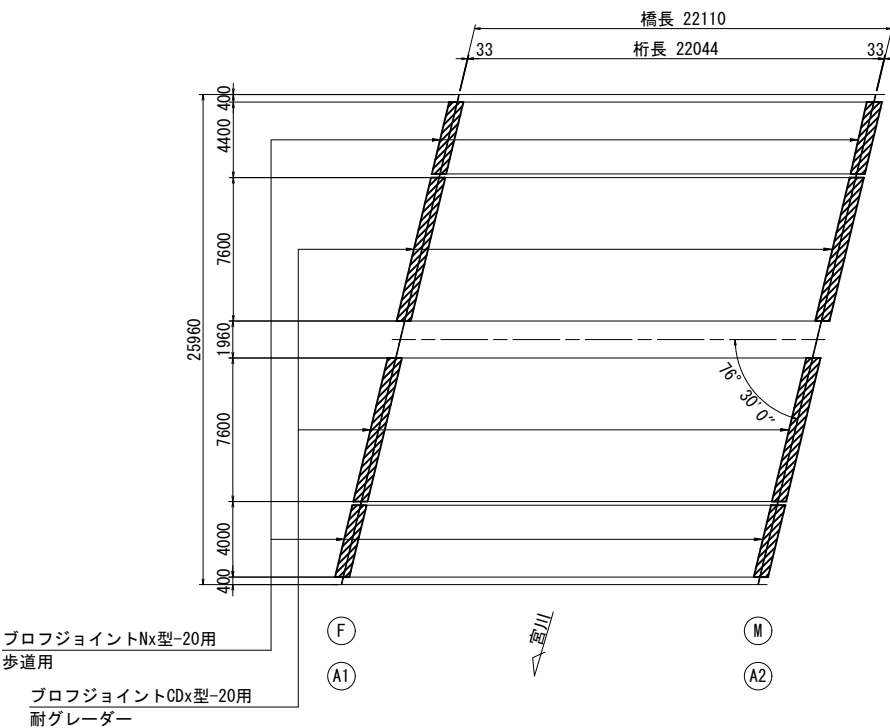


※現場接合部は、パッキンに接着剤を塗布し接合すること。また、指定範囲に溶接を施すこと。

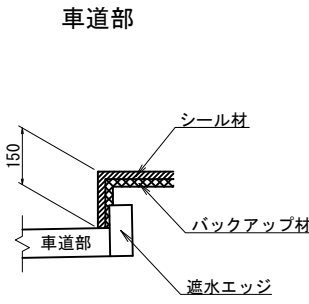
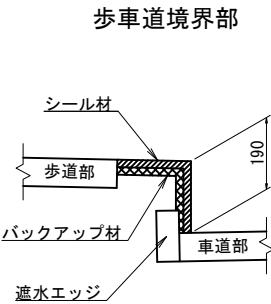
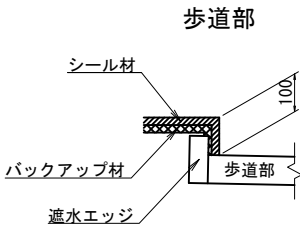
撤去平面図 S=1:100



配置図 S=1:200

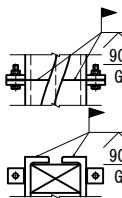


止水処理図 S= 1:10



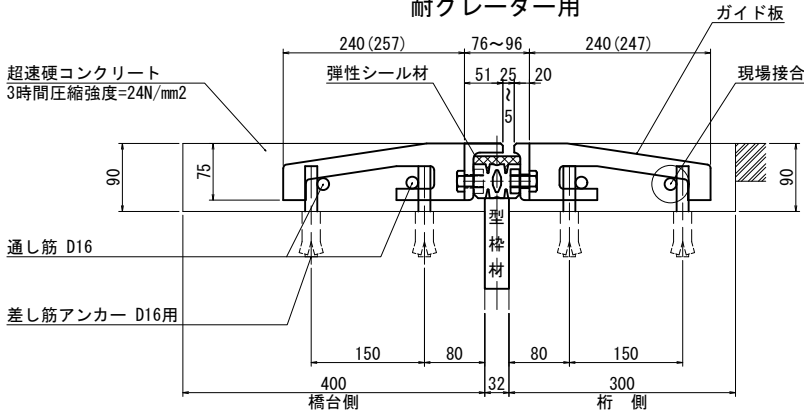
現場接合部詳細

プロフジョイントCD x 型



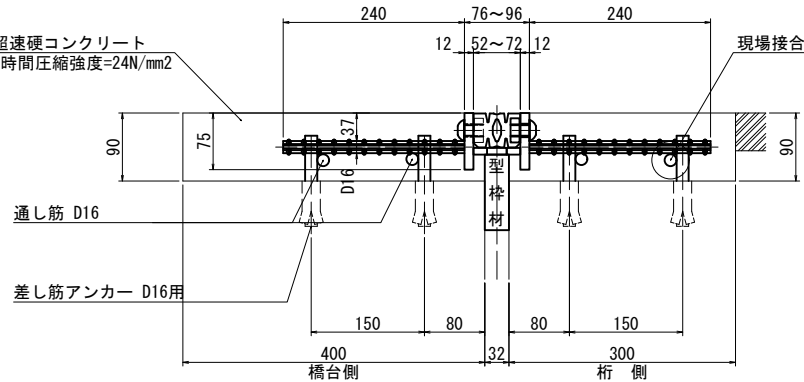
伸縮装置断面図 S= 1:5

プロフジョイントCDx型 (20用)
耐グレーダー用



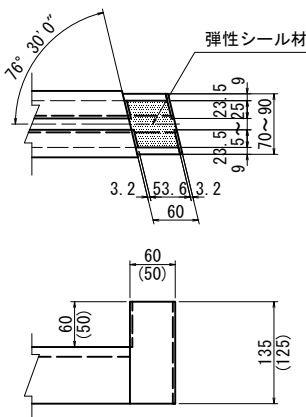
※()内寸法は、車両進行方向を示す。

プロフジョイントNx型 (20用)
歩道用



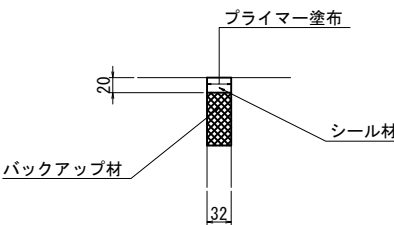
遮水エッジ S=1:5

プロフジョイント-20用



※()内寸法は、歩道部を示す。

シーリング材充填図 S= 1:5



伸縮装置撤去工数量表

名 称	規 格	合計数量	備 考
舗装切断工		93.8 m	
伸縮装置撤去工	アスファルト舗装 車道：t=66mm、歩道：t=50mm	46.9 m	

伸縮装置設置工数量表

名 称	材 質	A1数量	A2数量	合計数量	備 考
プロフジョイントCDx型-20用	SS400 合成ゴム 弾性シーリング材	15.760 m	15.760 m	31.520 m	耐グレーダー用
プロフジョイントNx型-20用	SS400 合成ゴム SD345	7.900 m	7.900 m	15.800 m	歩道用
遮水エッジ	SS400 弾性シーリング材	6 個	6 個	12 個	
超速硬コンクリート		1.491 m3	1.491 m3	2.98 m3	3時間圧縮強度=24N/mm2
差し筋アンカー(D16用)	SD345	184 本	184 本	368 本	上部工側
差し筋アンカー(D16用)	SD345	184 本	184 本	368 本	下部工側
通 し 筋	SD345	4 本	4 本	8 本	D16x15760
通 し 筋	SD345	4 本	4 本	8 本	D16x7900
シーリング材	シリコン系	2.9リッター	2.9リッター	5.8リッター	
バックアップ材		4.520 m	4.520 m	9.040 m	
接合部接着剤	---	1 組	1 組	2 組	

- 注) 1. 本図における橋梁本体寸法は、河川法第24・26条許可申請書(昭和62年9月17日)添付図(以下、添付図)を基に復元したものである。
2. ※を付した寸法値は本業務現地調査結果により更新した寸法である。
3. 対象橋梁の桁端部はA1橋台側のみ直接確認でき、A2橋台側は直接目視不可能となっている。そのため、遊間量は、起終点同等としてA1橋台側で計測した値とし、桁長は、橋面で計測した橋長から遊間量を差し引いて設定した。
4. カッター幅及びはつり深さは、現地確認の上決定のこと。
5. あと施工アンカーを主桁に打込む際は、主桁の鉄筋やPCケーブルに留意すること。
5. 胸壁幅や伸縮装置設置長さ等は、施工前に現地に計測を行い、寸法を確認した上で、製作・施工すること。
6. シーリング材及びバックアップ材数量は、現地測量・現場協議のうえ決定する。
7. 歩道部において、伸縮装置撤去はマウントアップ部撤去工前に実施し、伸縮装置設置工はマウントアップ部設置工後かつ、橋面防水工前に実施すること。

実施

工事名	道路メンテナンス事業 新竹原橋補修設計業務委託		
図面名	新竹原橋 伸縮装置取替え工詳細図		
作成年月日	令和 6 年 12 月 25 日		
縮尺	図 示	図面番号	7 / 7
会社名	大日本ダイヤコンサルタント株式会社		
事業者名	富士吉田市役所		